

生まれて三か月にもならない赤ちゃんでも、お母さんの顔は識別できます。お母さんが声をかけると、それに対して「アー」とか「ウー」と声を出します。それにお母さんが受け答えてやると、また「アーウー」と答えます。お話をしているようなものです。

毎日のように、目と目を合わせてこういうやりとりを繰り返すうちに、人間の音声、すなわち言葉が発達していきます。

赤ちゃんと話をするときは、ちゃんと相手の目を見て話すことが大切です。赤ちゃんはお母さんの声と同時に目の動きから言葉を覚えて行きます。ですから、赤ちゃんの目を見て話をするということがとても大事なのです。

一歳を過ぎる頃になると、赤ちゃんは、一生懸命に言葉を模倣しようと努力し、カタコトですが、言葉をしゃべり始めます。それから二、三年の間に、母国語の大半をマスターするのです。

驚くべき能力です。「アーウー」の段階から、この素晴らしい才能はすでに芽が出始めているわけです。このスタート地点になるのですから、できるだけ多く話しかけてやることが大切です。

名前を呼んで「　　ちゃん、元気ねえ」でもいいのです。赤ちゃんが

「アーウー」しか言えないときでもどんどん話しかけてやるべきです。大切なことは、心がこもっているかどうかです。九官鳥が「おはようございます」と言っても、あれは言葉ではありません。単なる“音”です。

赤ちゃんに語りかける言葉としては、「今日はお天気がいいわよ」でも「パパは何時頃帰ってくるかしら」でも「庭の朝顔がとてもきれいよ」でも、何でもいいのです。会話をするのが大事なのです。意味がわからない、話が通じるはずもないといって、テレビに子守りをさせたのでは、赤ちゃんの脳は発達しません。それどころか、後々にいろいろな障害が出てくるようになります。